

【引用文献】

1. 新海栄一 (2017) ネイチャーガイド日本のクモ増補改訂版. 文一総合出版, 東京 408pp.
2. 谷川明男 (2012) 大津波とイソコモリグモ. *Kishidaia* 100: 34–36.
3. Nunomura N (1983) Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan, I. Taxonomy of the families Ligiidae, Trichoniscidae and Olibrinidae. *Bull. Toyama Sci. Mus.* 5: 23–68.
4. 布村昇・上野俊一 (2006) ホンドワラジムシ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生動物 クモ形類・甲殻類等 (環境省編) 46.
5. Komatsu T, Nunomura N (2019) New discovery and redescription of *Hondoniscus kitakamiensis* Vandel, 1968 (Crustacea : Isopoda : Trichoniscidae) from scree-covered slope, Iwate-ken, Northern Japan. *Bulletin of the Toyama Science Museum* 43: 23–27.
6. 布村昇・中屋直哉・小松貴・渡辺修二 (2021) 岩手県盛岡市繋の地下浅層からのホンドワラジムシ *Hondoniscus kitakamiensis* Vandel (甲殻亜門, 軟甲綱, 等脚目, ナガワラジムシ科) の発見. 岩手県立博物館研究報告 38: 17–21.
7. 松政正俊 (2007) 三陸沿岸域. 第7回 自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査 (干潟調査) 業務報告書. 環境省自然環境局 生物多様性センター, 富士吉田 28–31.
8. 渡部哲也 (2014) 海辺のエビ・ヤドカリ・カニ ハンドブック. 文一総合出版, 東京 104pp.
9. Mukai H (1992) The importance of primary inhabitants in soft-bottom community organization. *Benthos Research* 42: 13–27.
10. 阿部博和・松政正俊・木下今日子・鈴木孝男・金谷弦 (2020a) 宮古湾津軽石川河口干潟における 2018 年干潟ベントス調査の報告 (東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査の補足調査). *みちのくベントス* 4: 12–21.
11. 阿部博和・松政正俊・木下今日子・鈴木孝男・金谷弦 (2020b) 広田湾小友浦における 2018 年干潟ベントス調査の報告 (東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査の補足調査). *みちのくベントス* 4: 22–31.
12. 阿部博和・菅孔太郎・松政正俊・鈴木孝男・木下今日子・柚原剛 (2020c) 宮古湾津軽石川河口干潟における 2019 年・2020 年干潟ベントス調査結果とベントス群集の長期変化. 岩手医科大学教養教育研究年報 55: 49–64.
13. 環境省自然環境局生物多様性センター (2007) 第7回自然環境保全基礎調査浅海域生態系調査 (干潟調査) 業務報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田 344pp.
14. 環境省自然環境局生物多様性センター (2017) 平成 28 年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査調査報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田 74pp.
15. 菅孔太郎・鈴木孝男・金谷弦・阿部博和 (2023) 芦崎の自然調査概要 (31・32 年次中間報告) 10. 芦崎干潟の底生動物. むつ市文化財調査報告第 52 集. むつ市教育委員会, むつ 86–92.
16. Kinoshita K, Matsumasa M (2016) Effects of the Great East Japan Earthquake on intertidal macrobenthos in Iwate Prefecture. In: *Ecological Research Monograph "Ecological impacts of tsunamis on coastal ecosystems: lessons from the Great East Japan Earthquake"*, Urabe J, Nakashizuka T (eds.), Springer Japan, Tokyo 133–149.
17. 松政正俊・及川秀之・中村光一・藤本真宗・平嶋賢治 (2023a) 東日本大震災後に再建された汽水性潟湖・古川沼におけるベントス (底生動物) 相. 岩手医科大学教養教育研究年報 58: 35–40.
18. Abe H, Kan K (2022) Phylogenetic position of the enigmatic genus *Atherospio* and description of *Atherospio aestuarii* sp. nov. (Annelida: Spionidae) from Japan. *PeerJ* 10: e13909.
19. 菅孔太郎 (2022) オミナエシフサゴカイ 近藤裕介・大塚攻・佐藤正典編 ハチの干潟の生きものたち—広島県竹原市に残る瀬戸内海の原風景—. NextPublishing Authors Press 98.
20. Okuda S (1937) Annelida Polychaeta in Onagawa Bay and its vicinity. I Polychaeta Sedentaria. *Scientific Reports of the Tohoku Imperial University, Fourth Series (Biology)* 12(1): 45–69.
21. Okuda S, Yamada M (1954) Polychaetous Annelids from Matsushima Bay. *Journal of faculty of Science Hokkaido University series VI. Zoology* 12(1–2): 175–199.
22. 新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 (2022) CD 日本のクモ Ver.2022. 著者自刊.
23. 多田野恒治 (1980) ワスレナグモの発見とその絶滅の経緯について. 昭和 54 年度科学教育発表会 (教員の部) 資料.
24. 渡辺修二 (2021) 大船渡市碓氷海岸のクモ. 岩手県立博物館調査研究報告 38: 22–24.
25. 八木沼健夫・新海栄一 (1977) 分布資料. *Atypus* 70: 43.
26. 国土交通省 河川水辺の国勢調査 河川環境データベースシステム
https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl_82_index.html (参照 2024. 01. 20)
27. Yaginuma T (1979) A study of the Japanese species of nesticid spiders. *Fac. Let. Rev. Oitemon Univ.* 13: 255–287.
28. 八木沼健夫 (1986) 原色日本クモ類図鑑. 保育社, 大阪 305pp.
29. Morino H (1993) A new species of the genus *Jesogammarus* (Amphipoda: Anisogammaridae) from brackish waters of Japan.

- Publication Itako Hydrobiological Station, Ibaraki University 6: 9–16.
30. 山田宇宙・内田大貴・小玉将史 (2021) 青森県十三湖に流入する今泉川から得られた北限記録となるヒヌマヨコエビ *Jesogammarus (Jesogammarus) hinumensis* (軟甲綱: 端脚目: キタヨコエビ科). 日本ベントス会報 76: 13–16.
 31. Nunomura N (1990) Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan V. Taxonomy of the Families Armadillidiidae, Armadillidae and Tylidae, with taxonomic supplements to some other families. Bulletin of the Toyama Science Museum 13: 1–58.
 32. 佐藤あかり・圓山由香・原田洋 (2005) 神奈川県城ヶ島におけるハマダンゴムシの成体分布. 横浜国立大学教育人間科学部附属理科教育実習施設研究報告 16: 1–10.
 33. 菊川章 (2020) 沖縄島及び多良間島におけるハマダンゴムシ *Tylos granuriferus* の色彩変異. 沖縄県立博物館・美術館, 博物館紀要 13: 15–22.
 34. 張成年・今井正・池田実・槇宗市郎・大貫貴清・武藤文人・野原健司・古澤千春・七里浩志・渾川直子・浦垣直子・川村顕子・市川竜也・潮田健太郎・樋口正仁・手賀太郎・児玉晃治・伊藤雅浩・市村政樹・松崎浩二・平澤桂・戸倉溪太・中畑勝見・児玉紗希江・箱山洋・矢田崇・丹羽健太郎・長井敏・柳本卓・斎藤和敬・中屋光裕・丸山智朗 (2018a) スジエビ *Palaemon paucidens* の 2 タイプを判別するための DNA マーカーおよび日本における 2 タイプの分布. ニッスイ学会誌 84(4): 674–681.
 35. 張成年・柳本卓・丸山智朗・池田実・松谷紀明・大貫貴清・今井正 (2018b) スジエビ *Palaemon paucidens* の遺伝的分化. 日本生物地理学会報 73: 1–16.
 36. Katogi Y, Chiba S, Yokoyama K, Hatakeyama M, Shirai S, Komai T (2019) A new freshwater shrimp species of the genus *Palaemon* Weber, 1795 (Decapoda: Caridae: Palaemonidae) from northeastern Japan. Zootaxa 4576(2): 239–256.
 37. 張成年・柳本卓・小西光一・市川卓・小松典彦・丸山智朗・池田実・野原健司・大貫貴清・今井正 (2019) スジエビ *Palaemon paucidens* の B タイプにおける遺伝的分化. 水生動物 第 2019 巻 AA2019-11.
 38. 武田真城・池田実 (2022) 奄美大島と加計呂麻島におけるスジエビ *Palaemon paucidens* C タイプの分布と遺伝的特徴ならびに幼生の海水要求性. 水生動物 第 2022 巻 https://doi.org/10.34394/aquaticanimals.2022.0_1 (参照 2023. 11. 30)
 39. 松政正俊 (2016) 11. 新しい干潟が教えてくれたこと. 生態学が語る東日本大震災 日本生態学会東北地区会編. 文一総合出版, 東京 83–88.
 40. 有山啓之 (2017) 大阪湾南東部岩礁域で採集された“イソテッポウエビ”について. 大阪市立博物館業績 454: 1–9.
 41. Matsumasa M, Kinoshita K (2016) Colonization of benthic animals on the newly created tidal flats in the “Sanriku” region, northern Japan. In, Ecological Impacts of Tsunamis on Coastal Ecosystems: Lesson from the Great East Japan Earthquake, Springer, Tokyo 117–132.
 42. 峯水亮 (2016) ネイチャーガイド 海の甲殻類. 武田正倫・奥野淳兒 (監修), 文一総合出版, 東京 344 pp.
 43. 松政正俊 (2019) 東北地方太平洋沖地震津波と復興事業に伴う生態系への影響. 月刊海洋 51: 418–423.
 44. 豊田幸詞 (2019) 日本産 淡水性・汽水性 エビ・カニ図鑑. 駒井智幸 監修. 緑書房, 東京 337pp.
 45. 松政正俊・菅孔太郎・阿部博和 (2023b) 岩手県沿岸における半陸棲カニ類の生息状況について. 岩手医科大学教養教育研究年報 58: 41–45.
 46. 伊谷行 (2012) トリウミアカイソモドキ. 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック. 日本ベントス学会編. 東海大学出版, 秦野 205pp.
 47. 和田恵次 (2017) 日本のカニ学—川から海岸までの生態研究史. 東海大学出版, 秦野 173 pp.
 48. Kawamoto M, Wada K, Kawane M, Kamada M (2012) Population subdivision of the brackish-water crab *Deiratonotus cristatus* on the Japanese coast. Zoological Science 29: 21–29.
 49. 渡部哲也・淀真理・木邑聡美・野元彰人・和田恵次 (2018) 砂浜性スナガニ類の関東以南太平洋岸における分布. Cancer 27: 7–16.
 50. 若林郁夫 (2019) 東北および北関東の太平洋岸におけるスナガニ類の生息記録. Cancer 28: 37–41.
 51. 環境省自然環境局生物多様性センター (2022) 令和 3 年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査調査報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田 67pp.
 52. Kuribayashi K, Mawatari S. F, Ishimaru S (1996) Taxonomic study on the Genus *Sternomoera* (Crustacea: Amphipoda), with redefinition of *S. japonica* (Tattersall, 1922) and description of a new species from Japan. Journal of Natural History 30: 1215–1237.
 53. Tomikawa K, Kyono M, Kuribayashi K, Nakano T (2017) The enigmatic groundwater amphipod *Awacaris kawasawai* revisited: synonymisation of the genus *Sternomoera*, with molecular phylogenetic analyses of *Awacaris* and *Sternomoera* species (Crustacea : Amphipoda : Pontogeneiidae). Invertebrate Systematics. 31(2): 125, available online at

54. 松政正俊・阿部博和 (2023c) 東日本大震災後に再建された砂浜・高田松原海岸におけるスナガニ (短尾下目: スナガニ科) の移入について. 岩手医科大学教養教育研究年報 58: 27-33.
55. 大高明史・木村直哉 (2018) 青森県におけるヌカエビ (ヌマエビ科) とスジエビ (テナガエビ科) の分布の現状. 陸水生物学報 33: 1-8.
56. 長澤和也・藤本泰文 (2021) 岩手県初記録のエビノコバン (等脚目ニセウオノエ科) とテナガエビへの感染実験. Nature of Kagoshima 48: 139-146.
57. 鈴木正貴・工藤人己・辻盛生 (2021) 盛岡市近郊における外来種アメリカザリガニの生息分布. 総合政策 22: 105-111.
58. 一寸木肇 (1980) 本州北部におけるサワガニ *Geothelphusa dehaani* (White) の体色変異について. Researches on Crustacea 10: 57-60.
59. 鈴木孝男・金谷弦・柚原剛・木下今日子・多留聖典・阿部拓三・太齋彰浩 (2022) 宮城県野生動植物調査会・海岸動物分科会による 2021 年度ベントス調査の結果. みちのくベントス 6: 2-20.
60. 松政正俊・阿部博和・小林元樹・鈴木孝男 (2022) 岩手県沿岸におけるヤマトオサガニ個体群の初記録. 日本ベントス学会誌 77: 54-59.
61. 阿部博和・菅孔太朗・松政正俊・鈴木孝男・柁原宏 (2022d) 岩手県小友浦におけるオグマヒモムシ *Nipponnemertes ogumai* (紐形動物門: 単針目) の北限記録. みちのくベントス 6: 21-27.
62. 上野俊一・森本信義 (1962) 岩泉, 安家地域の洞窟地下水とその動物相の概観. 岩手県洞穴群学術調査報告書. 日本ケイビング協会, 一宮 7-9.
63. 上野俊一 (1965) アッカホラアナゴカイ. 新日本動物図鑑[上] 岡田要・内田清之助・内田亨編. 北隆館, 東京 488pp.
64. 今村泰二・森本信義 (1969) 岩泉洞穴群の地下水動物. 日本洞穴学研究所報告書 1: 16-20.
65. 和田年史・和田恵次 (2015) ナンヨウスナガニ (スナガニ科) の日本海沿岸からの初記録. Cancer 24: 15-19.